

取組名	関係団体等と連携した「くじゅう地区国有林」の保全管理活動の推進	
署等名	大分西部森林管理署	
取組を行う背景・経緯	<p>長者原から牧ノ戸峠一帯の国有林は、「阿蘇くじゅう国立公園」の要所となっており、ミヤマキリシマなどの高山植物の群生地としても知られている。その景観は四季折々の変化に富み、また雄大な眺望も楽しめることから年間500万人にも及ぶ観光客や登山者に利用されている。</p> <p>くじゅう地区では、美しい自然環境を守るために、環境省をはじめ、地元自治体や自然保護団体（九重の自然を守る会）などが自然保護活動を行っているが、より効果的な保全活動を行うためには、森林管理署が中核となり、各種関係機関や団体と連携・協力して活動を展開していく行く必要がある。</p>	
実施した取組の内容、成果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 21年4月 やまなみハイウェイ沿いの植樹</li> <li>・ 21年7月～8月 くじゅう地区高山植物保護対策協議会によるパトロール</li> <li>・ 21年8月 自然公園クリーン作戦</li> <li>・ 21年10月 くじゅうの自然に感謝する日</li> <li>・ 21年11月 ミヤマキリシマ保全活動</li> </ul>	
取組体制	流域管理課登官・業務課長が中心となって企画した各事項について、全職員により実施。	
自己評価	観光客や登山者がより安全・快適に森林とふれあうことができるようになるとともに、国有林の管理経営について、地元住民をはじめ多くの国民の理解を深めることができた。	
今後の展望	くじゅう地区では、環境省、地元自治体、自然保護団体などが美しい自然環境を守るために自然保護活動等を行っているが、より効果的な保全活動を行うため、今後も森林管理署が中核となり、各種関係機関や団体と連携・協力して活動を展開していく予定である。	
新聞等掲載状況	2009/12/6 大分合同新聞	